

## 専攻科の外部評価結果について

平成28年4月1日に施行された「学校教育法等の一部を改正する法律」により、高等学校等の専攻科修了生の大学への編入学制度が創設されました。この件につき、文部科学省からの通知により、専攻科の外部評価の実施及びその公表を行うことが必要となり、本校看護専攻科においても以下の通り、自己評価及び外部評価を実施し、本校看護専攻科の教育目標の達成状況や取り組みの適切さ等について評価いただきました。

その結果、この制度を実施する大学に対して、本校専攻科修了生は編入学試験の受験ができることとなりました。

### <外部評価>

日時：平成29年7月5日（水） 14：00～16：00

評価委員：九州大学 薬学研究院 准教授 島添隆雄 氏  
福岡大学 医学部 看護学科 准教授 小柳康子 氏  
今津赤十字病院 看護部長 宮崎久仁子 氏

内容：博多高等学校看護専攻科 学校自己評価および外部評価結果

平成28年度 学校自己評価 および外部評価結果 ( 看護専攻科 ) 4段階評価( A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった )

評価項目	目標	具体的方策	自己評点	自己評価 (成果と課題)	外部評価
①年間目標 (H28年度)	見えない学力の向上(挨拶、容儀、部活・学校行事への積極的な参加、良好な人間関係)を図る。	①リーダー集会の実施(1回/月)、合同集会(4回/年)、合同行事(研究発表、講演、技術発表、卒業式)、上級生から下級生への技術およびレポート指導、学生による体験入学の企画運営 ②看護学生としての容儀、マナーについて考え、自分達で実行できるよう指導していく。 ③能率手帳を1回/週は提出させ、家庭学習状況や1日の過ごし方、不安に思っていることなどを確認し、指導および対応していく。 ④出席率99.8%以上を目指す。	B	縦割り班活動は定着してきており、生徒にとって非常に教育的な活動となっている。しかし、生徒主体にはまだ至っておらず、問題点を出し合い改善策を考える形のリーダー会とはなっていない。また、年間のスケジュールが立っておらず、行事直前での計画となっている。次年度は生徒会として組織を確立し、年間スケジュールを立案して活動できるよう指導していく。	①授業を見学して、生徒の授業態度の素晴らしさにとても驚いた。授業の初めは黙想し、授業中は集中して挨拶も素晴らしい。指導が行き届いている。 ⇒挨拶については、意識をしている場面では出来ているが、日頃の学校生活においては、全学年まだまだ出来ておらず、課題の一つである。  ②5年一貫教育は離職率が非常に少ないと伺っているが、これはこのような指導によるものと評価できる。先生たちの愛情が伝わってくる。卒業生が先生を慕っている。厳しいところもあるが、いい関係性ができているからではないか。全員で頑張れる一体感がある。  ③今後は自立を育てなければならぬ。専門職であるため生涯学習が必要である。社会に出た時、自ら学ぶ姿勢が大切であろう。 ⇒今後の課題としては、教員は国家試験合格にばかりに一生懸命になり過ぎていないか、卒業後、社会にどれだけ貢献できるのかを考え、指導していく必要がある。  ④能率手帳の活用でスケジュール管理に繋がるのではないか。
	学力の向上を図り、看護師国家試験に80名が全員合格できる。	看護学生として必要な文章力・自己表現力・コミュニケーション力の向上をはかることを念頭に置き、各教科毎の到達目標・授業計画・評価基準を検討する。国家試験の分析および対策の強化をはかる。基礎学力向上のため4年次から各教科の小テストの実施、疾患別の課題の提出、単位認定試験追試者の補講を行う。	A	専攻科4年生では74教科の講義を行っている。講義の中では看護師国家試験を意識し、授業を組み立てており、小テストや講義資料、単位認定試験においても国家試験問題や実習を意識して作成している。平成27年度4年生単位認定試験は、84名が全員合格し5年生に進級した。4年生の1月には低学年模試(TECOM)(解剖・生理、薬理学、病理学、微生物学、基礎看護)を行い、学校順位は72位/217校 偏差値54.1であった。5年次の模試の結果は、国家試験対策参照。看護師国家試験は、全員合格し達成できた。平成28年度4年生単位認定試験は、母性疾患1名が合格できず52名が進級した。4年生の1月には低学年模試(TECOM)26位/123校 偏差値58.5であった。国家試験の難易度が上がり、より確実な知識と患者の病態についてのアセスメント、データ分析力が必要となってきている。	
	5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)を徹底する。	清掃区域、担当割、教員監督を見直し実施する。縦割り班の中でクリーンアドバイザー(美化委員長)を決定し、現在の清掃状況および課題について生徒・学生主体で取り組む。学校内での言葉づかい・挨拶・風紀を徹底し、実習前にも社会に出る準備として挨拶・風紀・マナーの指導を行う。	B	清掃については、縦割りがうまく機能していないところがあったため、リーダーを招集し話し合いを行うことで少しずつ改善が見られた。平成28年4月、各学期ごと、実習前(4年生:1月 5年生:4月~10月)に風紀の確認をしている。専攻科に進級してからは実習を意識し、髪をまとめて登校し、学校生活を送っている。挨拶については自主的にできる学生と教員から促しをしないと気配りができない学生がおり自主的に挨拶ができるよう声掛けを行っている段階であり、十分ではない。	
②カリキュラム	・学習効果を高める工夫をする。	授業の目的、到達目標、授業計画を学生自身が確認するためのシラバスの作成	B	シラバスを製本化し、学生への配布は出来たが、構成を検討するとともにカリキュラムマップや各単元毎のGIO・SBOSを作成していく必要がある。	①高校のカリキュラムで基礎分野に地理、歴史と書いてあるが、看護科には書いていないがカリキュラムに入っていないのだろうか。 ⇒本校看護科独自のカリキュラムにより、日本史・世界史を学習している。地理は選択していない。  ②「科学と人間生活」とはどのような教科なのか。また、看護師では物理は必要だと思われるが、このカリキュラムの中に含まれているのか。 ⇒「科学と人間生活」は非常に幅広い分野であり、物理もこの中に薄くは入っている。普通科教員との連携をはかっている。ただし、基礎学力の強化が必要だという事で、現在の高校カリキュラムには、物理、化学、生物をそれぞれ3単位ずつ学習している。  ③専攻科のカリキュラムの中に「看護管理」という言葉が出てきてないが、「統合と実践」の中に含まれているのでしょうか？ ⇒「統合と実践」の中のひとつに「看護管理」は含まれており、臨地実習でも学習している。「統合と実践」の中のひとつとして「看護管理」は含まれ、臨床実習でも学習している。  ④目標は看護師国家試験100%合格となっていますが、「医療者としての資質を保つ」ことが一番大事な目標になるので、この文言を入れた方がよいではないでしょうか？ ⇒日常生活の中でいろんな体験をすることが少なくなってきたので自立できるようなカリキュラムを取り入れる必要がある。他者の気持ちが分かる為には他者の中で生活することが大事である。キャンプや合宿などを取り入れることが必要。核家族化で祖父母の死などに触れたことがないからでしょう。人間性を育てる心を育てるカリキュラムが必要ではないでしょうか。  ⑤試験60点以上だと知識だけになるになる為、技能、態度、出席を含めた評価が必要。授業態度、ディスカッションを観察し、レポート作成など、全ての評価を行い、ルーブリック評価に変換していく必要がある。特に4年生以降改善が必要になる。
	・医療職者としての意識向上のための授業企画を行う。	博多メディカル専門学校との合同実習および医療機器についての学習、がん患者の体験を聴く講演会、卒業記念講演会の開催、NICU見学、感染症講義、障害児看護講演および施設見学、卒業生の講話	A	実践を通してイメージでき、患者の立場に立って考えることにつながり、とても良い学びの機会となった。合同実習・医療機器についての学習、がん患者の体験を聴く講演会、卒業記念講演会の開催、NICU見学、感染症講義、障害児看護講演および施設見学、卒業生の講話は予定通り全て実施できた。	
	・授業教材の工夫を行う。	4年次: iPadを使用することにより、解剖図など立体的なイメージ化を図る。実際の患者を想定し、6事例(肝硬変・脳梗塞・大腿骨頭部骨折・誤嚥性肺炎・糖尿病・母性疾患)看護展開を行い、演習を行う。 5年次: 各論実習後の前期(7月)後期(11月)実習反省会の実施、看護研究発表会を行う。	B	視聴覚教材としての使用はできたが、ICTのアクティブラーニングへの活用はまだ出来ていない。4年次に事例の展開を6事例以上掲げ、実際の演習と結び付けて実施し、事例をもとに実習日誌を書いた。実習を想定し、事例をもとに看護過程の展開(アセスメントデータ、ゴードンの分析、関連図、看護計画)を行った。5年次各論実習では、前期と後期の実習終了後、4年・5年生が学生主体で実習反省会を開催し、実習の学び・反省を発表し学びの共有を行った。お互いの学びを発表することで相手の気持ちに共感したり、看護師になる為に必要な学びを共有する機会となり看護観を考える機会となった。	

評価項目	目標	具体的方策	自己評価	自己評価（成果と課題）	外部評価	
③臨地実習	・臨地実習の運営の工夫を行う。	①実習反省会・打合せを行い、実習の内容を調整しており、施設と前年度のフィードバックを行うとともに課題を出し話し合いを行う。(実習後学生アンケートの実施) ②学校内での実習施設の指導者研修を受け入れる。(実習指導者を学校へ受け入れ専攻科4年生の症例に準じて実技、レポート指導を実施) ③実習先での指導者との綿密な実習調整と学生指導を行う。	B	①学生の評価点や実習終了後のアンケートを基に実習施設との反省会・打合せを行い綿密に実習指導を行い、調整を行うことができた。 ②平成28年6月末に本校にて臨床指導者講習会を行い、専攻科4年生に技術・レポート指導を受けることで本校の学生の特徴や指導方法の共通理解ができたとの意見があった。 ③実習先では、学生と指導者との調整役を行い、実習を行っている。しかし、施設から教員の配置人数が少ないなどの意見があった。平成28年度より新たに3つの施設(精神・成人・母性領域)で実習の受け入れをして頂いたが、本校の学生の学ぶ姿勢を高く評価され次年度も引き続き実習を受け入れたいとの評価を受けた。今後の取り組みとして、全領域での学生アンケートを行う。また、講義の中での看護過程の展開の症例数(今年度6症例⇒8症例)を増やし、思考過程を養う。	①実習先で他の学校と重ならないのでしょうか。 ⇒休憩室等で一緒になるが、いい刺激を受けているようだ。  ②アメリカではチーム医療として医学部学生、歯学部生などで違う学部生と一緒に実習を受ける体制に変わってきている。将来看護実習も変わっていくと思われる。  ③貴校の実習ファイルが素晴らしい。勉強の量が多くて驚いている。 ⇒就職してもこのファイルが役に立つと思うが、個人情報が入っているので学校管理となっている。個人情報を管理していく上では本人の手元に戻すことはしないが、事前学習に関しては返却をしている。本校の事前学習は手書きで、実習においてはパソコン使用は認めていない。教科書をみてまとめることで知識の定着につながるよう指導している。大学では1年次にスタディスキルを勉強し、書き方、調べ方を学んでいるが、専攻科では縦割り教育により、このスタディスキルの勉強法に自ずとなっている。	
	・臨地実習事前教育の強化を図る。	実習オリエンテーションの実施、各領域での事前学習課題、実習前技術演習のチェック、接遇・マナー教育(在宅)	A			
	・ボランティア活動の推進を図る。(4年・5年併せて40名以上の学生がボランティアに参加する)	重症心身障害児施設、老人介護保健施設でのボランティア活動、未来プロジェクト参加(医療従事者を志す学生が患者さんのためのチーム医療を考えるプロジェクト参加)、被災地(熊本)訪問ボランティア活動	A	A	毎年重症心身障がい児施設にボランティアに行き、奉仕活動を行っている。障がいを持つ児との関わりを持つことが学生の楽しみの一つとなっている。平成28年度5年生41名が実習施設である久山療育園の秋祭りに参加し患者様からも好評であった。しかし、今年度は、老人介護保健施設でのボランティア活動は本校の体験入学と重なり実施できていない。また、専攻科4年生1名が夏休みに熊本へ震災のボランティアに行った。専攻科4年生2名が医療従事者の学生が参加する未来プロジェクトに参加した。その後未来プロジェクト参加をきっかけに乳がん患者の会の方により専攻科4年生5年生136名へ講演を行って頂いた。今後も主体的にボランティア活動が行えるよう指導の必要性がある。	
	・臨地実習施設の安定した確保を図る。(平成28年度5年生の学生数は80名)	①これまでで最も多い80名の5年生の実習施設の確保(特に、母性、精神の実習施設が不足)のため県内の地域の病院へ足を運び、実習依頼を行う。 ②実習施設との綿密な打ち合わせ、オリエンテーションの実施、実習先での実習指導の徹底をはかる。	A	A	1年前より確保が必要な施設・人数をあらゆる病院にこまめに連絡し実習の受け入れを打診した。その後、本校の学生の実習状況や学習の内容などを説明し、受け入れをして頂いた。実習先では、学生と指導者との調整役を行い、実習を行った。しかし、施設から教員の配置人数が少ないなど意見があった。今年度より新たに3つの施設(精神・成人・母性領域)で実習の受け入れをして頂いたが、本校の学生の学ぶ姿勢を高く評価され、継続して次年度も引き続き実習を受け入れて頂くことが可能となった。	
④国家試験対策	国家試験に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけを図る。 ①国家試験対策校外模試 12月 偏差値 57以上を目指す。 ②校外模試、校内模試のデータ管理、出題傾向の分析を行う。	専攻科4年生： 国家試験問題集の推奨、低学年模試(1月)、前年度(第105回)の過去問テストを実施する。 専攻科5年生： リメディアル教育の実施(成績順位から成績下位を抽出しマンツーマン指導の徹底)、夏休みの特別補習、年8回校外模試、習熟度別の特別補習、11月から放課後補習、12月～1月休日補習を実施する。	A	A	①教育の質の評価の1つとして看護師国家試験の合格率によりどのような教育を行っているのか判断材料の1つとなる。そういった意味では国家試験合格率は高いということは貴校の教育の質を評価できる。	
		専攻科5年生を対象に4月から国家試験模試を実施し、成績の順位が下位22名を対象に夏季補習・朝・夕方の補習を実施した。また、全体に対しては11月から放課後補習・12月～1月には休日補習を実施した。今年度80名全員が国家試験合格。第106回国家試験問題 必修問題 本校平均値 45.2点(ボーダー40点) 本校最高点50点 本校最低点40点 一般+状況設定問題 本校平均値 169点(ボーダー142点) 本校最高点 200点 本校最低点145点 課題としては第107回から出題基準の変更が行われるため国家試験の対策の見直しを行う必要がある。また、臨床を意識した情報を取捨選択して状況に応じた個別的なケアを導き出す論理的な思考を強化する学習が必要である。本校の特徴として4月から7月の偏差値の伸びが悪く偏差値が低下している傾向にある。また、7月から12月にかけて、偏差値が上昇していくため、学生の実習中からの国家試験対策への意識づけをし、データからの本校の弱点を割出し、早めの対応対策を行う必要がある。				
		<b>11期生 国家試験模試結果</b>				
		種類		回		
		学研チャレンジ		全国順位		
		第1回		福岡県順位		
		第2回		偏差値		
		第3回				
		アカデミー				
		第1回				
		第2回				
		第3回				

評価項目	目標	具体的方策	自己評点	自己評価（成果と課題）	外部評価
⑤教員研修・学会等	・教員の授業力・指導力の向上を図る。	研究授業を継続して実施する。国家試験対策についての教員セミナーへ参加し、国家試験対策の授業については向上してきており、通常授業においても授業研究・教材研究を行う。	B	国家試験対策については教員セミナーに参加し、授業研究を行っている。教員が4コマずつ特別講義を行い、放課後補習を7コマ、休日補講を1日ずつ担当して補習を行っている。夏期職員研修において、ICTを使った授業研究を看護科職員とともに実施したが、専攻科独自の授業研究はできていない。次年度、専攻科全職員が指導案を立案し、研究授業を行い意見交換していく。また、各担当の授業が終了した後に授業アンケートを実施し、アンケートの内容から授業の分析を行っていく。	①生徒の授業評価を取り入れてみてはどうか。 ⇒高校の方では行っていたが、今年度より専攻科に於いても授業評価をしていく。
	・関係団体との協力体制強化、全国看護高等学校研究協議会に2名参加する。	5年一貫教育校における研修に参加し、現在の課題とその解決策について意見交換し、今後に活かす。	B	全国看護高等学校研究協議会2名参加し、平成26年指定 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール中間報告「5年一貫教育の特徴を生かした、看護専門職者を育成するための先進的なプログラムの研究開発」、研究発表Ⅱ「看護の基礎的な知識と技術の習得を向上させる指導方法と評価の工夫改善について」「自ら学び、考え、行動する力の育成のための指導の工夫と評価」～看護の実践への展開においてジグソー学習方法を取り入れた取り組みの評価～の研究発表があった。また、管理部会・基礎看護学・成人看護学・老年看護学・精神看護学に分かれて研究発表会があった。また、福岡県看護高等学校冬季研修会に全員参加した。純真短期大学 こども学科 特任教授平嶋 一臣先生が「人間関係づくりの原点は自分の感性磨きから」の講演をされた。その後教育懇談会があり5年一貫教育についての意見効果の場となった。	
⑥進路	・就職希望者の内定100%を目指す。 ・実習施設および実習病院への就職内定75%以上を目指す。 ・進学希望者の100%合格を目指す。(助産師・保健師・養護教諭の学校への進学)	全員内定を目指し、進路、就職に関する支援体制、学生相談に関する体制を整える。助産師・保健師・養護教諭などの上級学校希望者への指導の強化を図る。実習病院へのインターンシップ、病院見学を勧める。実習病院の就職説明会の実施	A	A	
⑦その他	保護者との適切な連携体制(精神面/専門的職業人の育成/退学者4名以内)を整える。 保護者アンケート結果より「専門的職業人の育成」:90%以上、「学校の教育活動満足度」:80%以上、「親身になって相談に乗ってくれる先生が多い」:80%以上、「何事にも一生懸命な先生が多い」:80%以上を目指す。	学習状況、生活状況が気になる学生の保護者への連絡および面談、5年次保護者アンケートの実施、必要に応じての家庭訪問の実施	B	問題学生や学力低下の学生へは早目に家庭訪問や三者面談を行っていった。学生および保護者アンケートを実施し、アンケート結果では、「保護者・学生アンケートともに専門的職業人としての育成に努めている」の項目は94%～95%と高かったが、「学校の教育活動に満足している」の項目については保護者80%学生73%とやや低い結果になった。「親身になって相談に乗ってくれる先生が多い」の項目は保護者71% 学生75%、「何事にも一生懸命な先生が多い」の項目は保護者72% 学生82%とやや低めの結果となった。平成28年度は専攻科4年生3名、5年生2名の退学者となった。家庭内に悩みを抱えている学生が多く、専攻科に上がり看護師としての仕事に対して自信がなく、学業面において続かなくなる学生もいるため学校生活での関わりにおいて一人一人に親身に関わっていく必要がある。	①入学時から卒業までの進路変更の割合はどうか。 ⇒現在では1割になっている。毎年入学生の人数が変わる。多い年の実習施設を確保するのが大変で、人数が少ないからと言って、実習施設を減らすわけにはいかない。次年度に繋げるために確保しておく必要がある。向う何年間を見据えていかなければならない。 ②アンケートの結果は決して低い数値ではない。特に「専門的職業人としての育成に努めている」「学校の教育活動に満足している」の項目についても高く全体的に高いと言える。精神面や学習面において学校を続けていけなくなる学生が増えており、どこの大学の看護科でも抱えている問題である。シンポジウムなどが開催されたり対策が取られている。担任を支える組織を作らなければならない。 ⇒お預かりしたい以上、教員の手厚い指導でなんとか卒業まで頑張らせている。看護師とは命を預かる職業人であると指導している。
	・学生の健康管理を徹底し、安全に学校生活や実習を行えるよう体制を整える。	4月健康診断、抗体価検査、ワクチン接種、カウンセリング(学校カウンセラー)	A	抗体価が必須レベルだったものを推奨レベルに引き上げ、ワクチン接種を行う。実習中は体調について特に指導をしており、体温測定(家を出るとき・病院内に着いた時)必須としており、感染症状の出現時には、報告・連絡・相談をするように指導している。平成28年度対象学生はいなかったが、健康安全対策とし本校のスクールカウンセラー2名と連携し保護者も含めて精神面のフォローを行っていく。	

## 大学編入学に関する条件

	大学に編入学できる高等学校専攻科 基準 (文部科学省 告示)	博多高等学校 看護専攻科
入学者資格	高等学校 中等教育学校 特別支援学校高等部卒業生	高等学校卒業
修業年限	2年以上	2年間
年間授業時数 (単位時間)	原則800時間以上	1年次 1405時間 2年次 730時間
総授業時数 (単位時間)	全課程で1700時間以上	2135時間
授業時間の 単位への換算	45時間の学修を1単位として、 講義・演習15～30授業時間 実験・実習30～45授業時間 の間で専攻科が定める時間数 を1単位とする。	講義1単位 15～30時間 実験・実習1単位 30～45時間 臨地実習1単位 40～45時間
教員資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士の学位を有する者</li> <li>・学士の学位を有する者で、2年以上の教育、研究又は技術に関する業務の経験者</li> <li>・2年以上の高校主幹教諭、指導教諭、教諭の経験者</li> <li>・短期大学士の学位(準学士)を有する者で4年以上の教育、研究又は技術に関する業務の経験者</li> <li>・専修学校専門課程修了者で、当該課程の修業年限と教育、研究又は技術に関する業務の経験を通算して6年以上となる者</li> <li>・高等学校専攻科修了者で、当該課程の修業年限と教育、研究又は技術に関する業務の経験を通算して6年以上となる者</li> <li>・特定の分野について、特に優れた知識、技術、技能及び経験を有する者</li> <li>・その他上記に掲げる者と同等以上の能力があると認められる者</li> </ul>	専攻科教諭8名 <内訳>部長1名 主任1名 教諭6名  学士以上の学位 4名 短大・専門学校等 4名
教員数	80人まで 3人 81～200人まで 4～6人 201～600人 7～14人 601人以上 15人以上 *うち半数以上が専任教員	生徒数 130名 教員数 8名 (専任教員 8名)
校舎面積	専用面積 $260\text{m}^2 + 3 \times (\text{生徒総定員} - 40)$ 工、農、医療系の場合 *ただし特別の事情があり教育上支障がない場合はこの限りではない。	看護科・看護専攻科棟 $2,990.57\text{m}^2$ 専攻科専用面積 $1,220.93\text{m}^2$ 基準面積 $260\text{m}^2 + 3 \times (120 - 40) = 500\text{m}^2$
施設	専用の教室 *教員研究室等は努力義務  *職員室、事務室、保健室、図書室は本科と共用可能なため専用のものの設置を求めない。	看護科・看護専攻科棟 講堂、合同教室2、実習室、教室4 *相談室、医機室、講師控室、職員室 教科準備室は看護科と共用 *事務室、保健室、図書室、礼法室、音楽室、体育館、OA室は本科と共用